

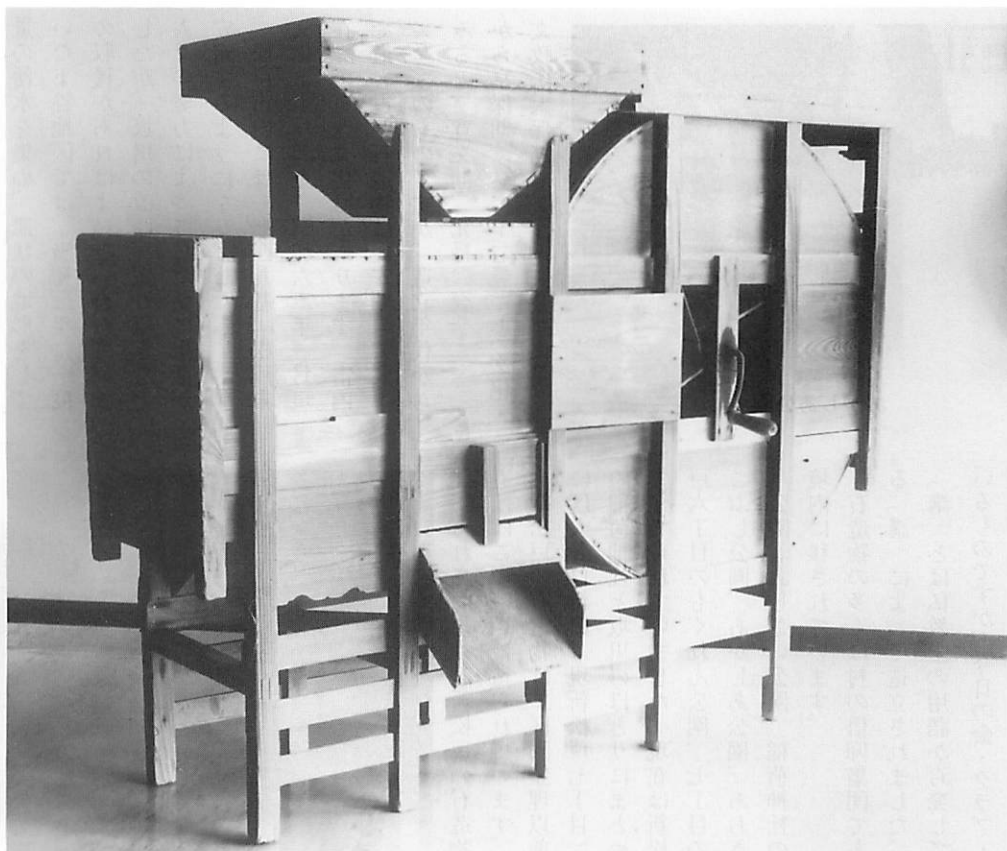
みず 水

ぐるま 車



(財)新松戸郷土資料館館報

第2号



財団法人 新松戸郷土資料館

〒270 千葉県松戸市新松戸3-27

新松戸市民センター(三階)

電話 0473-44-1909

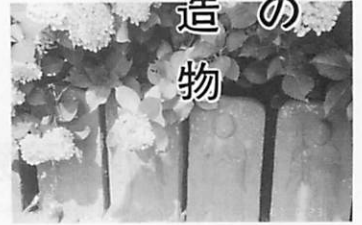
発行年月日 昭和62年7月19日

もくじ

- ◇民具写真—唐箕—..... 1
- ◇新松戸の石造物..... 2・3
- ◇新松戸の野草今昔..... 3
- ◇「唐箕」..... 4
- ◇展示品寄贈者..... 4
- ◇新任挨拶..... 4
- ◇お知らせ..... 4

新松戸の

石造物



「古い歴史のある新しい街・新松戸」といっても、今日先人たちの存在を感じさせるものはほとんどありません。しかし、街を散策した時、公園の片隅で古い石造物を見かけた方も少なくないでしょう。これらの石造物は誰が何のために、どのような時代に造られ、長い年月の間風にさらされてたまたずんでいるのでしょうか。

長い湿地帯の時代を経て、新松戸地域（下谷）に人々が生活の根をおろすようになったのは、江戸時代の初期でした。江戸を本拠地とした徳川幕府は、利根川の銚子沖への東遷など関東の河川水系を整備し、関東各地に新田開発を行いました。下谷地区の開発も江戸川右岸の二郷半領に続き、寛永年間（一六四〇～一六五九）より始められ、寛文期（一六六一～一六七〇）

までに活発な新田開発が行なわれたようです。下総台地から浸み出る大量の湧水を集め、皿状の地形を造った下谷地区では、当初三年に一度の収穫があればよいといわれていましたが、坂川の改修・掘り継ぎなど人々の努力によって徐々に生活が安定するようになりました。

松戸市内には一七四九基（松戸市文化ホール調査、昭和六二年一月現在）の石造文化財があります。市内で最も古い石造物は慶安期（一六四一～一六五〇）のものですが、造立年代からみると、寛文期、元禄（一六八八～一七〇三）から享保期（一七六〇～一七六九）と、文化・文政・天保期（一八〇四～一八四三）に多く



あかしあ公園



おおざり公園

建てられています。新松戸の石造物もほぼこの時期に造られています。新松戸の石造物は、区画整理以前には大谷口新田（現新松戸七丁目）の稲荷神社と坂川のほとりにまともて建てられていました。現在は新松戸六丁目のもくれん公園、七丁目のこぶし公園、あかしあ公園、おおざり公園、あじさい公園、稲荷神社の境内に移されています。

石造物の多くは村の信仰集団である「講」によって造立されました。「講」とは仏教上の用語から発しているものですが、今日の会・クラブ・サークルのような性格をもつもので、信仰だけでなく相談ごとやお金の積

新松戸の石造文化財

稲荷神社	あじさい公園	おおざり公園	あかしあ公園	こぶし公園	もくれん公園	種類	造立年月日	西暦
甲子塔	名号・題目塔	名号・題目塔	念仏塔	馬頭観音	馬頭観音	庚申塔	元禄一七・正・吉	一七〇四
二十三日夜塔	名号・題目塔	名号・題目塔	光明真言塔	参拝塔	馬頭観音	庚申塔	元禄一七・正・吉	一七〇四
誂誂塔	名号・題目塔	名号・題目塔	馬頭観音	天保九・一・吉	馬頭観音	庚申塔	元禄一七・正・吉	一七〇四
弘法大師供養塔	文化一五・二二	嘉永七・二	大正七・二・二四	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
弘法大師供養塔	寛文五・八・吉	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
（不明）	寛文五・八・吉	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
弁財天	寛政二・二・吉	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
巡礼塔	寛政二・二・吉	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
富士講碑	昭和九・二	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
大山講供養塔	昭和九・二	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
天	昭和五・二	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
大杉明神	安永八・一〇・二七	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
神使・石鳥居	昭和五・二・初年	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
石灯籠	昭和五・二・初年	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
手洗石	昭和五・二・初年	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
力石他三基	文化元・三・吉	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
文化元・三・吉	（不明）	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
（不明）	（不明）	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四
（不明）	（不明）	嘉永七・二	元禄四・二・九	天保九・一・吉	元禄一〇・二・吉	寛政元・九・吉祥	元禄一七・正・吉	一七〇四

み立て、貸し付けなど相互扶助の役割もはたしていました。また、さまざまな知識の交換や村民たちの話し合いの場でもあり、座談のうちに村の生産・生活についての伝統もいろいろな形で受け継がれていきました。村の中にはいくつもの「講」があり、一軒の家で複数の「講」に加入するのが一般的でした。

新松戸で最も古い石造物はあじさい公園にある寛文五年（云空）八月に造立されたものです。一つの石に宗派の異なる「南無阿弥陀仏」の番号と「南無妙法蓮華経」の題目が農民の名前と一緒に刻まれています。大谷口新田の開発をになった人々がたとえ宗派が違っても互いに協力して、平和な村を築こうという願いをこめたのでしょう。この名号・題目塔は全国的に見ても唯一の石造物とされます。



もくれん公園の庚申塔

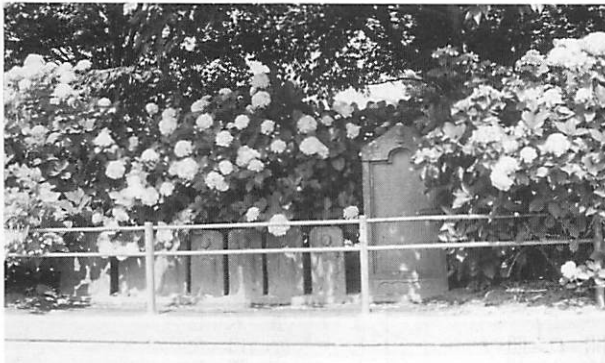


あじさい公園の名号・題目塔

新松戸の石造物では庚申塔が最も数が多く六基あります。庚申塔は庚申信仰の集りである庚申講の人々によって造立されました。庚申信仰とは、日本の民間信仰を代表するひとつであり、十干の庚と十二支の申とが結びついたもので、六十日ごとに巡ってくる庚申の夜に、人の体内に住みついている三尸さんしの虫が睡眠中に身体から抜け出て、天帝にその人の罪過を告げ、天帝がそれを聞いてその人の死期を早めるというものです。このために、人々は「講」をつくらせて講員の家を順番に宿にして集まり祈願した後に三尸の虫が抜け出さぬように一晩中寝ずに飲食を共にして楽しく語りあかしました。庚申塔には、天上界に住む仏教の守護神のひとつである青面金剛が刻まれたり、

申さるから猿に結びついて「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿が刻まれたものもあります。甲子塔・二十三夜塔・念仏塔・題目塔・参拝塔・地藏尊などの石造物も同じようにそれぞれの「講」の人々によって造られました。

先人たちの生活の息吹きを伝える石造物は、時代が変っても人と人のコミュニケーションの大切さを今日に伝えているのではないのでしょうか。新松戸の石造物たちは、新しい街・新松戸の歴史を伝える文化財なのです。



あじさい公園

新松戸の

野草今昔



ブタクサ

新松戸地域にみられる植物の分布は、土地区画整理の前と後では大きく変わってしまいました。水田が埋め立てられて宅地化され、それまで稲掛けの柱として使用されていたハンノキ・トネリコなどの木は伐採され、アヤマ・オミナエシ・ワレモコウなどの草花もすっかり姿を消してしまいました。変わってセイトカアワダチソウ・ブタクサ・ヘラオオバコ・ワルナスビなど繁殖力の旺盛な帰化植物が増え続けています。これらの中には、近年人々を悩ましていく花粉アレルギーの原因とされているものもあるようです。夾竹桃通りの植込みの中に可憐な花を咲かせるネジバナも帰化植物の一種です。また、道端でよく見かけるタンポポも、萼がくがそり返ったセイヨウタンポポにとってかわられたようです。



セイヨウタンポポ

「唐箕」



唐箕の構造を
はかる図

当資料館展示室の中でも大きな場所を占めます「唐箕」は、風選による穀物選別の木製農具の一つです。

近世の農書には、モミフルイ（颯扇）と記されていますが、自然の風を利用してそれ以前の「箕」に代わって、大量の穀物を短時間のうちに選別することができました。

「唐箕」は唐の字が示すように中国から伝来した農具ですが、江戸中期の元禄時代（一六六〇〜一七三〇）頃より使用されたようです。大変便利な農具であったために瞬く間に全国各地へ普及していききました。

使用方法は、糶摺り後の糶を上部の漏斗から入れ、円形胴部の中心に取り付けられたハンドルを回転させます。内部の板羽根の回転によって風が起こり、重い玄米・軽い糶殻・

秕・藁くずなどが重量ごとに選別され、それぞれの出口からこぼれ落ちる仕組みになっています。米の他にも麦・豆・粟などの穀物に用いられました。また、大きな農具にかかわらず（およそ幅一・七尺、高さ一・三尺、奥行〇・五尺）、軽量で運びやすい工夫がこらされています。

「上総唐箕」の名で知られた唐箕は、千葉県君津地方の農家が農閑期の副業として、各地を泊り歩きながら注文を受け、製造・販売されたものです。

昨年の夏休み子供歴史教室では、唐箕を実際に子供達と動かしてみましたが、正確に選別される様子に子供達から歓声があがりました。



昨年の子供歴史教室

展示品寄贈者

- 清水建設株式会社
- 東武鉄道株式会社
- 三菱地所株式会社
- 新松戸の都市建設を担当したデベロッパー三社より、資料館入口際の新松戸の大型写真パネルと展示室内「都市建設の完成した新松戸」の模型を、御寄贈していただきました。

新任挨拶

専門委員 横山 照邦

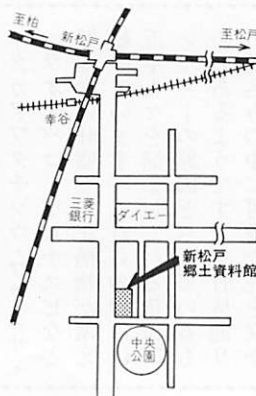
四月に就任致しました。これまで新松戸南中学校校長として、開校以来八年間にわたって勤めておりましたので、この新松戸地域とのつながりは深いものがあります。また、松戸市には長年住んでおりますので、これらの経験を生かして資料館の仕事をしてまいりたいと思います。

お知らせ

- ☆夏休み子供歴史教室
七月二十三日(木)
- ☆坂川の歴史・民具体験学習
八月二十八日(金)・二十九日(土)

〈資料館利用のご案内〉

- ▽開館日 毎週水曜〜日曜日
- ▽時間 10時〜16時(ただし、入館は15時30分迄)
- ▽入館料 無料
- ▽所在地 松戸市新松戸3-27
新松戸市民センター3階
- ▽電話 ☎44-1909



編集後記

◇春の高温、雨の降らない梅雨。異常気象の影響は大きいようです。自然と調和して生きてきた日本人として、現代の生活を今一度見直したいと思えます。

◇人が住み始めて四百年の間、ずっとと見つけてきた石造物たち。大切に次代へと受け渡したいものです。

◇新松戸の今と昔に関する皆様からの御投稿をお待ちしております。